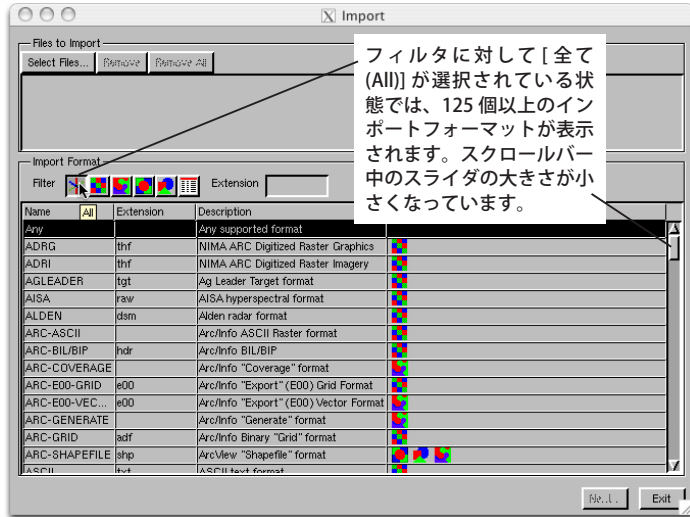
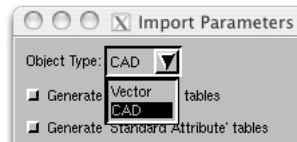


最初にフォーマットを選択する

TNTmips のインポート / エクスポート処理はラスタ、ベクタ、シェイプ、CAD、TIN、データベースの百数十もの外部ファイル形式に対応しています。加えて、多くの主要なファイルフォーマットがインポートせずに直接 TNT 製品で使用できます。例えば、オートデスク社のソフトの DWG ファイル (*.dwg) や DXF ファイル (*.dxf)、インターグラフ社 Microstation の DGN ファイル (*.dgn)、JPEG2000 (*.jp2)、MrSID (*.sid)、シェイプファイル (*.shp)、等。テクニカルガイド「システム：外部空間データファイルの自動オープン (System:AutoOpen External Geodata Files)」の裏面に直接使用できるファイルの一覧が掲載されています。

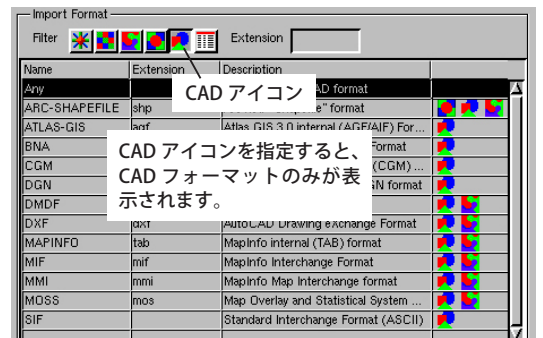


TNTmips のインポート処理ではファイルとフォーマットの 2 つの方法で選択できます。まず先にファイルを選んで、それからプロセスにフォーマットを決めさせるか、またはユーザがフォーマットを選択することもできます。それにより、データタイプ (ラスタ、ベクタ、CAD、データベース) が決まり、インポート可能なファイルの範囲が限定されます。1 つ目の選択の方法は、テクニカルガイド「インポート：最初にファイルを選択する (Import:Selecting File First)」で解説しています。ここではもう 1 つの方法について解説します。データタイプを指定すると、使用可能なファイルフォーマットが絞られます。ファイルフォーマットを選択する前にデータタイプを指定することをおすすめ



します。リストの絞り込みに加えて、生成するオブジェクトタイプが設定されるので、[次 (Next)] ボタンを押したときに開くウィンドウでベクタや CAD としてインポート可能なファイルを把握しやすくします。

インポートするファイルをブラウズしたり選択する前にファイルフォーマットを選ぶと、インポート処理の選択フィルタが使えるので便利です。目的のフォーマットを探す手助けとして、フォーマットリストの各列の見出し上で左クリックすると名前 (Name)、拡張子 (Extension)、説明 (Description) の各列で並び替えできます。ファイルフォーマットを選択して、[ファイル選択 (Select Files)] ボタンをクリックすると、そのフォーマットのファイルだけが <ファイル選択 (Select Files)> ウィンドウに表示されます。



ファイルフォーマットを選択する別の方法は、ファイルの拡張子を入力欄に入力する方法です。拡張子の最初の文字を入力すると、すぐに拡張子にその文字を含むフォーマットの一覧が表示されます。このリストは続きの拡張子を入力するほど絞られます。拡張子 3 文字を入力すると、大抵リストには選択肢が 1 つだけ残ります。拡張子の中には .img のように複数のフォーマットで使われているものもあります。その場合は、

フォーマットについて知っている必要があり、あるいはまず最初にファイルを選択して、インポート処理にフォーマットを決めさせる必要があります。



インポートするファイルのフォーマットを指定する前 (左) と後 (右) では選択用に表示されるファイル数に大きな差があります。

ファイルフォーマットの中にはベクタや CAD オブジェクトとしてインポートできるものがあります。先にベクタまたは CAD のデータタイプアイコンをクリックせずに [選択 (Select)] ボタンをクリックしてファイルを選んだ場合は、[次] ボタンをクリックした後に開く <インポートパラメタ (Import Parameters)> ウィンドウで希望するオブジェクトタイプを指定します。設定されたオブジェクトタイプがあなたの希望するタイプかチェックしてください。<インポートパラメタ> ウィンドウのデフォルトのオブジェクトタイプは、そのフォーマットに対して <インポート> ウィンドウのオブジェクトタイプカラムに最初に表示されているオブジェクトタイプアイコンと同じです。